佳作

弟から学んだこと

松江市立湖南中学校　1年　林躍真

　僕の弟にはあるものがあります。それは障がいです。弟は覚えるのがやや苦手で一ヶ月前のことを話すとポカンとした表情で「忘れた。」と言います。そんな弟を見て僕は自分との比較からイライラしていました。

　そんな思いで過ごしていたおととしの春。友達と公園で遊ぶ約束をしました。友達と遊ぶことは約二ヶ月ぶりだったので、とても楽しみでワクワクした気持ちが止まりませんでした。帰ってすぐ、お母さんに友達と遊んで良いかと聞くと、その会話を聞いていた弟が「僕も一緒に遊びたい。」と言ってきました。この時、一緒に遊ぶ友達に弟が自分勝手な行動をして迷惑をかけるのではないかと不安で、弟を連れて行くことを拒否したくなりました。しかし、ダメだと言えば、弟がだだをこねることも心配だったので、仕方なく連れて行くことにしました。

　当日、最初はみんなで公園の遊具で遊んでいましたが、その後ボール鬼ごっこをして楽しみました。すると友達が「躍真くん（僕）の弟をねらおうよ。」と言ってきました。この時、僕にとって弟は大切な家族なのでしたくないなぁと思う一方、友達からの提案を断ると友達が嫌な気持ちになるのではないかと思い、結局友達の方を優先することにしました。

　最初、弟は自分がねらわれていることに気づきませんでした。次第に僕はボールを投げるとき、今までのイライラをぶつけてやろうという気持ちになっていました。今思うと、弟の表情はだんだんと泣きそうなくしゃくしゃの顔つきに変わっていたと思います。

　弟へのボール当てが終わり、解散することになりました。すると、弟の姿がありません。僕はどうしようとあせり、急いで家に帰りました。弟は帰宅していませんでした。ちょうど家に帰ってきたお父さんも含め、家族みんなで弟を捜すことにしました。僕の頭の中はぐちゃぐちゃで、すごく混乱していました。このままいなくなったらどうしようという不安や僕のせいで家族に心配をかけてしまって申し訳ない気持ち、弟がいなくなった原因が自分にあり、怒られてしまうのではないかという気持ちなどでいっぱいでした。とにかく無事に早く帰ってきてほしいと強く願いながら、辺りを捜しました。時間はちょうど十八時。暗くなっていました。みんなで捜し始めて約三十分後、お母さんが弟を見つけたという情報が、お姉ちゃんを通して僕に伝わりました。それを知った時、ほっとして涙が自然と出てきました。そして、弟が泣きながら家に帰ってくると、僕の涙の量はさらに増え、「ごめんね。」と何回も謝り、お互いに抱きしめあいました。

　この出来事から、僕は大きく二つの点について考えました。一つ目は家族はみんなかけがえのない存在であるということです。正直、弟に対してのイライラが完全

になくなったわけではありませんが、大切な家族であり、決して欠かすことのできない存在だという思いが今は上回っています。また、確かに弟は一ヶ月前の話をすると、ポカンとした表情で、「忘れた。」と言いますが、例えばトランプで神経衰弱をするときは僕よりも強く、短期の記憶力は優れています。僕だって得意なことがあれば、不得意なこともあります。それらみんなひっくるめての人間なので、存在そのものが大切だと強く感じます。二つ目は、差別につながることは悲しみを生むということです。もしまた友達から、「躍真くん（僕）の弟をねらおうよ。」と言われたら、今度は拒否しようと思います。そして、ただ拒否するのではなく、「みんなで楽しめる遊びをしようよ。」と声かけしたいと思います。友達は弟が自分たちよりも年下なので、ねらいやすいと考え、提案してきたと思いますが、一人だけをねらうということは悲しみや嫌な思いをする人間を生み出すし、差別につながると思います。弟のような経験を、自分を含め僕の周りの人みんながしないように気をつけたいと思います。

　最後に、結果としては一時のことでしたが、僕は弟がいなくなってすごく不安に感じ、あせりました。やっぱり自分の身近な人がいなくなることは衝撃を受けます。〇〇だから、いなくなれば良いのにと思ってしまうこともあるかもしれません。でも、いなくなっても何とも思わないことは絶対にありません。〇〇だからとその人を否定的にとらえず、肯定的な面にも目を向けると見方や考え方が変わります。たとえ肯定的な面がすぐに見つからなくても、ねばり強く関わっていけば、いつかきっと見つかると思います。「言うは易く、行うは難し」ですが、僕はこのことを意識して生活したいと思います。そして、僕と同じように肯定的な面を見つけようとする人が一人でも増えたら良いです。